

事項	<p>水稻の葉いもち、紋枯病に対するオリサストロビン箱粒剤（嵐箱粒剤）による防除法（播種前処理（床土混和）、播種時（覆土前）処理の追加）</p>		
ねらい	<p>これまで、オリサストロビン箱粒剤のいもち病と紋枯病に対する使用時期は移植3日前～移植当日であったが、播種前処理、播種時（覆土前）処理が登録され、同等の防除効果が認められたので参考に供する。 また、本剤を使用することにより、1成分で2病害が防除可能となる。</p>		
指導参考内容	<p>1 オリサストロビン箱粒剤（嵐箱粒剤）の使用法 (1) 処理方法： 播種前処理（床土混和）： 育苗箱1箱当たりの床土（約4ℓ）に均一に混和する。 播種時処理：播種前後（覆土前）に育苗箱の上から均一に散布し覆土する。 （緑化期～移植当日処理：育苗箱の苗の上から均一に散布する。） (2) 使用量：50g/箱 (3) 使用時期：播種前、播種時（覆土前）～移植当日 (4) 対象病害：葉いもち</p> <p>2 薬剤名等 (1) 一般名：オリサストロビン粒剤 (2) 商品名：嵐箱粒剤 (3) 有効成分：オリサストロビン 7.0% (4) 人畜毒性：普通物 (5) 魚毒性（成分としての）：B</p> <p>3 使用基準 (1) 適用病害：いもち病、紋枯病 (2) 使用量：育苗箱（30×60×3cm、使用土壌約5ℓ）1箱当り50g (3) 使用方法：育苗箱の上から均一に散布する。 (4) 使用時期：播種前、 播種時（覆土前）～移植当日 (5) 使用回数：本剤1回 (6) 成分総使用回数：2回以内（移植前は1回以内、本田では1回以内）</p>		
期待される効果	<p>1 水稻のいもち病（葉いもち）と紋枯病に対する防除方法の参考になる。 2 減農薬栽培などにおいて農薬の使用回数削減に寄与する。</p>		
利用上の注意事項	<p>1 本資料は平成20年3月1日現在の農薬登録に基づいて作成した。 2 農薬を使用する場合は、必ず最新の「農薬登録情報」（http://www.maff.go.jp/nouyaku/）を確認すること。 3 育苗後、苗の置床跡に他作物を栽培する場合は、箱施用の処理をハウス外で行うか、ハウス内で行う場合はビニルシートを使用するなどの対策を取り、ハウスの置床に薬剤がこぼれ落ちないようにすること。 4 耐性菌の発達を未然に防ぐため、嵐剤、オリブライト剤（メトミノストロビンを含む剤）、アミスター剤は同一薬剤とみなし、年1回の使用にとどめる。 5 嵐箱粒剤は混合剤として市販されているため、使用方法等をよく確認すること。 6 エコホープ剤と嵐箱粒剤（嵐プリンス箱粒剤6（播種前、播種時処理））との体系防除はエコホープ剤の効果が得られないという報告があることから、そのような体系は避ける。</p>		
担当部署（担当者名）	青森県農林総合研究センター 病害虫防除室 （倉内賢一）	対象地域	県下全域
発表文献等	平成15～16年度 青森県農林総合研究センター試験成績概要集		

【根拠となった主要な試験結果】

表1 葉いもちに対する防除効果

(平成15年 青森農林総研)

供試薬剤名	処理時期	発病株率 (%)				株当病斑面積率 (%)				株当上位葉病斑数 8/7	防除価	薬害	
		7/10	7/17	7/25	8/7	7/10	7/17	7/25	8/7				
嵐箱粒剤	播種前(床土混和)	0	0	b 12	b 26	b	0	0	b 0.01	b 0.03	b 0.11	92	±
嵐プリンス箱粒剤6	播種前(床土混和)	0	1	b 9	b 20	b	0	0.00	ab 0.01	b 0.02	b 0.06	95	±
対) デラウス箱粒剤	播種前(床土混和)	0	0	b 13	b 41	b	0	0	b 0	b 0.04	b 0.19	90	—
無処理		0	17	a 100	a 99	a	0	0.02	a 0.22	a 0.42	a 0.33		
F検定			**	***	**		*		***	*	ns		

(注) 上位葉は止葉及び止葉次葉を調査。防除価は8/7の株当病斑面積率より算出。

試験場所: 農試圃場(境松)、品種: ゆめあかり、播種前処理: 播種時(4/16)に50g/箱量を床土混和、施肥: 多肥(N11+5)、移植: 5/22、罹病苗移植: 7/2、出穂期: 8/8、発生状況: 中発生、薬害±: 育苗期にわずかに黄化したが回復。

表2 葉いもちに対する防除効果

(平成16年 青森農林総研)

供試薬剤名	処理時期	発病株率 (%)			株当病斑面積率 (%)			株当上位葉病斑数 7/28	防除価	薬害	
		7/14	7/21	7/28	7/14	7/21	7/28				
嵐プリンス箱粒剤6	播種時(覆土前)	6	bc 69	bc 71	c	0.01	b 0.13	b 0.09	b 0.2	b 92	—
嵐プリンス箱粒剤6	移植当日	11	bc 92	ab 90	abc	0.01	b 0.13	b 0.14	b 0.5	b 88	—
対) デラウスプリンス箱粒剤06	播種時(覆土前)	1	c 53	c 78	c	0.00	b 0.06	b 0.10	b 0.9	b 92	—
対) デラウスプリンスリンパー箱粒剤	移植当日	11	c 83	abc 100	a	0.01	b 0.11	b 0.21	b 1.0	b 83	—
無処理		99	a 100	a 100	a	0.41	a 1.04	a 1.18	a 3.8	a	
F検定			***	***	***	***	***	***	***		

(注) 上位葉は止葉及び止葉次葉を調査。防除価は7/28の株当病斑面積率より算出。

試験場所: 農林総研圃場(境松)、品種: ゆめあかり、施肥: 多肥(N11+5)、

処理: 播種時(覆土前)処理4/16および移植時処理5/21に50g/箱量処理、罹病苗移植: 7/2、出穂期: 7/28 発生状況: 多発生

表3 紋枯病に対する防除効果

(平成15年 青森農林総研)

供試薬剤名	処理時期	処理量	全体の被害度				防除価 8/28	薬害
			7/23	8/5	8/18	8/28		
嵐箱粒剤	播種前(床土混和)	50g/箱	0	0.1	b 4.2	b 7.5	ab 70	±
嵐プリンス箱粒剤6	播種前(床土混和)	50g/箱	0	0.2	b 5.4	b 8.1	ab 67	±
嵐箱粒剤	移植当日	50g/箱	0	0.1	b 5.0	b 6.9	ab 72	—
対) デラウスプリンスリンパー箱粒剤	移植当日	50g/箱	0	0.5	b 5.3	b 11.3	ab 54	—
対) リンパー粒剤	出穂22日前	3kg/10a	0.0	0	b 1.6	b 4.6	b 82	—
無処理			0	3.4	a 18.2	a 24.9	a	
F検定			ns	**	**	*		

(注) 全体の被害度は羽柴の方法により算出。防除価は8/28の全体の被害度より算出。

試験場所: 農試圃場(境松南)、品種: ゆめあかり、播種前処理: 播種時(4/16)に床土混和、移植当日処理5/22、出穂22日前処理7/17、

施肥: 多肥(N11+5)、移植: 5/22、自然感染、出穂期: 8/8、発生状況: 中発生、薬害±: 育苗期にわずかに黄化したが回復。

表4 紋枯病に対する防除効果

(平成16年 青森農林総研)

供試薬剤名	処理時期	処理量	全体の被害度				防除価 8/30	薬害
			7/30	8/9	8/19	8/30		
嵐プリンス箱粒剤6	播種時(覆土前)	50g/箱	0	0.7	c 5.6	d 10.6	c 69	—
嵐プリンス箱粒剤6	移植当日	50g/箱	0	1.1	c 4.3	d 10.9	c 67	—
対) デラウスプリンスリンパー箱粒剤	移植当日	50g/箱	0	8.0	ab 19.1	ab 30.2	ab 10	—
対) モンガリット粒剤	出穂13日前	4kg/10a	0	2.4	c 9.0	cd 14.5	c 57	—
無処理			0.2	11.7	a 25.3	a 33.6	a	
F検定			ns	***	***	***		

(注) 全体の被害度は羽柴の方法により算出。防除価は8/30の全体の被害度より算出。

試験場所: 農林総研圃場(境松)、品種: ゆめあかり、播種時(覆土前)処理: 4/16、移植当日処理: 5/21、出穂13日前処理: 7/15、

施肥: 多肥(N11+5)、移植: 5/21、自然感染、出穂期: 7/28 発生状況: 中発生

(参考) 価格: 嵐プリンス箱粒剤6の場合 1袋1kg 約3,500円前後
約6,125円/10a (中苗・35枚/10a)